

2020年9月16日

新型コロナウイルス感染症流行時における小児への予防接種について
—新潟県新潟市—

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

要旨

- ・新型コロナウイルス感染症流行に伴う外出自粛が子どものワクチン接種に及ぼす影響を新潟県新潟市において調査しました。
- ・4種混合ワクチン、BCG、13価肺炎球菌結合型ワクチンの接種本数が軽度減少していました。
- ・1歳で接種するワクチン（麻しん・風しんワクチン1期、水痘ワクチン）の接種本数が減少していました。
- ・年長児で接種するワクチン（日本脳炎ワクチン1期・2期、2種混合）の接種本数が減少していました。

注意) 本調査は新潟市保健所から提供された資料に基づいており、必ずしも国内全体の接種状況を反映しているとは限りません。各地域の最新の接種状況は別途、それぞれの保健所等にご確認ください。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、2020年3月2日から全国一斉に臨時休校となり、外出自粛が推奨されました。4月7日に7都府県対象の緊急事態宣言が発令され、4月16日には全都道府県が対象となり、新潟県も対象地域に含まれました。新潟市内では、2020年2月29日に県内初の感染者が発生し、その後3月、4月に感染者数が増加しました。

当委員会は『新型コロナウイルス感染症に関する Q&A』などを通じて、COVID-19 流行のために、子ども達への予防接種を差し控えることにより、適切な予防接種が適正な時期に行われなことが、子ども達にとって大きなデメリットとなることを訴え、通常通りワクチンを接種することを啓発してきました¹。さらに、神奈川県川崎市における調査で、1歳以降で接種されるワクチンの接種本数が減少していることを報告しました²。

当委員会は、国内における予防接種差し控えの実態をさらに明らかにするため、新潟市保健所保健管理課感染症対策室のご協力のもと、新潟大学小児科、新潟市医師会予防接種検討委員会と合同で、新潟市における子どものワクチン接種状況を評価しました。予防接種はその種類や接種推奨年齢により毎月の接種

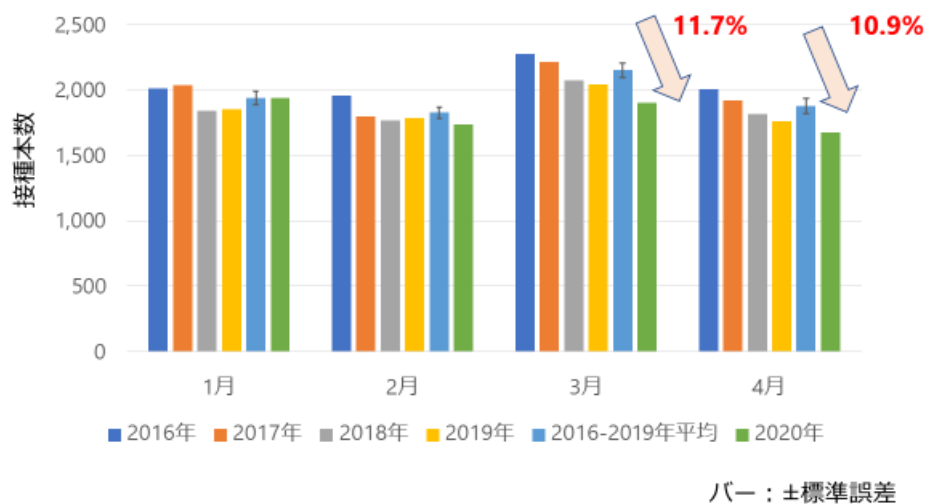
状況が異なるため、接種率ではなく各年度の同月接種本数を比較し、COVID-19 流行後の変動を検討しました。新潟市では接種対象年齢の子どもの人口は殆ど変化しておりませんので、このデータからも接種状況の変動は把握出来ると思われます。(以下に示すグラフは日本小児科学会により作成されました)。

過去4年の平均値と2020年の接種本数を比較し、15%未満：ピンク、15%以上：赤で表記しました。2020年の数値が過去の特定の年の数値と近い場合は、平均値と差があっても差ありとは見なしませんでした(著変なし、と評価)。複数回接種するワクチンについて、集計方法の都合により、麻疹・風疹ワクチンと日本脳炎2期以外は接種回数ごとの接種本数は不明です。

1) 4種混合ワクチン (DTaP-IPV)

0歳で3回、1歳を超えて追加で1回接種するDTaP-IPVに関しては、2020年の3月と4月の接種本数が、過去4年の平均値と比較して減少していました。

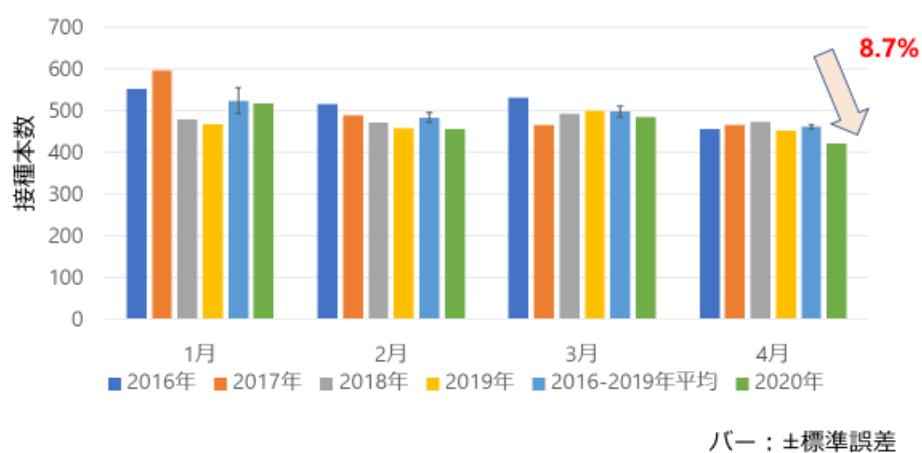
4種混合ワクチン



2) BCG

生後 5-8 か月での接種が推奨されている BCG に関しては、2020 年の 4 月の接種本数が、過去 4 年の平均値と比較して減少していました。神奈川県川崎市の調査では 2020 年 3 月に接種本数が増加していたのとは異なる結果でした。

BCG



3) 麻しん・風しんワクチン (MR)

1歳以上2歳未満での接種が推奨されているMR1期における2020年3月、4月の接種本数は、過去4年の平均値と比較して約17%減少していました。一方で小学校入学前の1年間での接種が推奨されているMR2期の接種本数では減少はありませんでした。

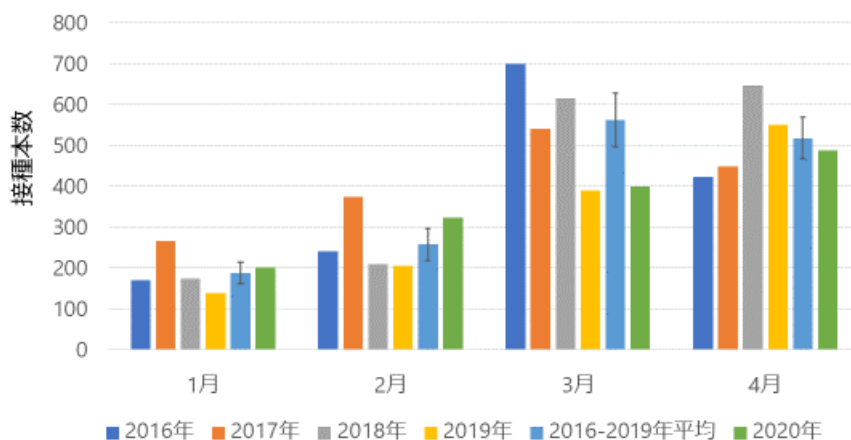
麻疹風疹ワクチン1期



バー：±標準誤差

麻疹風疹ワクチン2期

著変なし

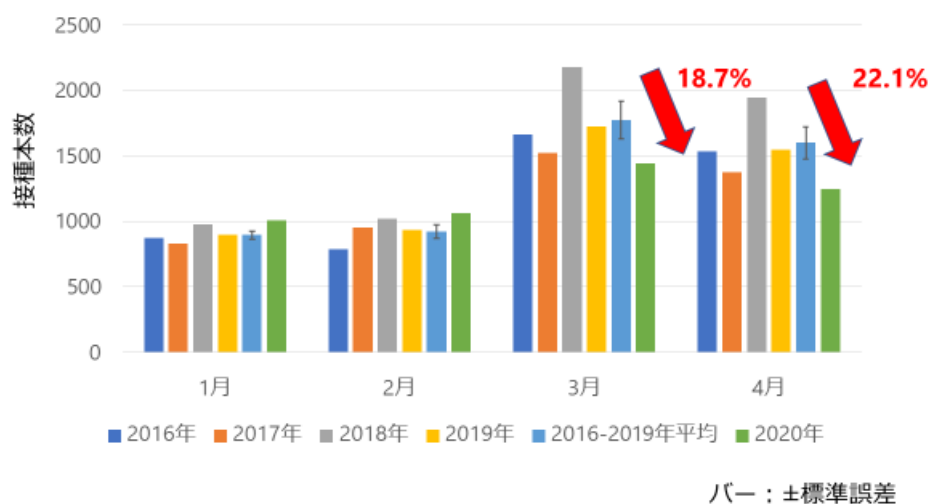


バー：±標準誤差

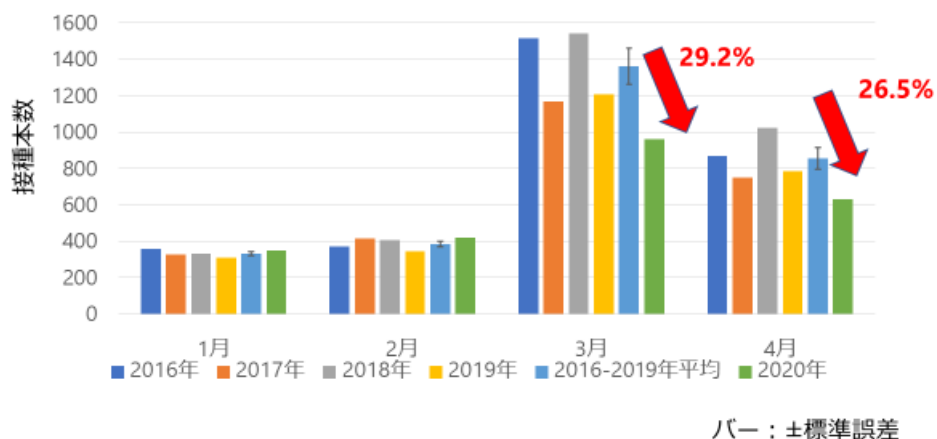
4) 日本脳炎ワクチン

3-4 歳での接種が推奨されている日本脳炎 1 期における 2020 年 3 月、4 月の接種本数は過去 4 年間の平均値と比較して約 20%減少していました。9-12 歳での接種が推奨されている日本脳炎 2 期における 2020 年 3 月、4 月の接種本数の減少は更に顕著に認められました。

日本脳炎1期



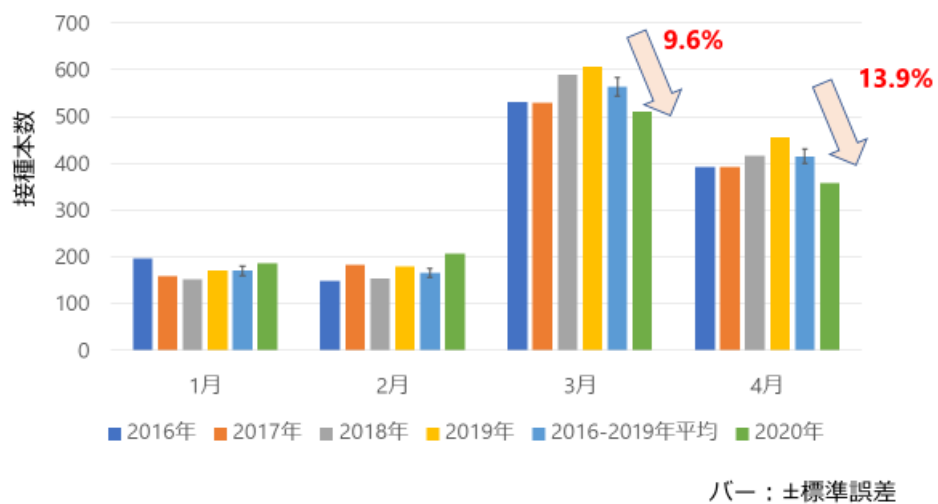
日本脳炎2期



5) 2種混合ワクチン (DT)

11-12歳での接種が推奨されているDTに関しては、2020年の3月と4月の接種本数が、過去4年の平均値と比較して減少していました。

2種混合



考察

新潟市は、新潟県内で最多の新型コロナウイルス感染症患者数が確認されていますが、首都圏の神奈川県川崎市と比べると、感染者数は少ない地域です。それにもかかわらず、新潟市では1歳以降のワクチン接種本数の減少が主に2020年3月と4月に認められました。全体としては神奈川県川崎市と同様の事象が起きていることがわかりました。

詳細は省略しますが、乳児期に3回接種するB型肝炎ワクチンは著変なしでしたが、乳児期に3回と1歳以降に1回追加接種する13価肺炎球菌結合型ワクチンと1歳以降に2回接種する水痘ワクチンについても接種本数は減少していました。

特に麻しん・風しんワクチンと水痘ワクチンの接種本数低下は、これら疾患の流行の潜在的リスクを高めます。予防接種を行う医療機関では、COVID-19の流行を受けて、安心安全に予防接種を継続していく感染対策の整備が進められています。日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール³を基に適切なタイミングで予防接種を行うこと、また、特に幼児期以降の小児はCOVID-19の影響により接種が控えられたワクチンを確実にキャッチアップ⁴することが重要です。

謝辞

データをご提供いただいた新潟市保健所に深謝いたします。

参考文献

1. 日本小児科学会. 新型コロナウイルス感染症に関する Q&A. 2020.
https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326
2. 日本小児科学会. 新型コロナウイルス感染症流行時における小児への予防接種について. 2020.
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=345
3. 日本小児科学会. 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール. 2020.
http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=138.
4. 日本小児科学会推奨の予防接種キャッチアップスケジュール. 2020.
https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=18